

ふるさとドクターネット広島

ふるさと通信

□■ 2009年3月 第4号 ■□

■発行者■ 広島大学医学部医学科広仁会 ふるさとドクターネット広島 会長 中谷 一彌

TEL:082)255-5020 FAX:082)256-5300 E-Mail doctor-net@qa.pref.hiroshima.jp

県内医療トピックス

■『救急医療資源の正しい利用を進める週間』について

救急車や救急医療機関などの救急医療資源の適正な利用について、県民の理解と協力を求めるため、「救急医療資源の正しい利用を進める週間」を定め、公共交通機関の車両等へ啓発ポスターやステッカーの掲示、通勤時間帯におけるJR広島駅前でのリーフレットの配布などのキャンペーン活動を実施しました。

【啓発週間】平成21年3月9日(月)～平成21年3月15日(日)

【実施主体】広島県地域保健対策協議会、広島県消防長会、
ひろしま健康づくり県民運動推進会議

【背景】

- ・「広島県地域保健対策協議会」（広島県、広島県医師会、広島大学、広島市で構成）において、救急医療の現場を支援するための方策等について検討を進め、その一環として、昨年2月に広島市消防局管内で「救急車の利用状況」について調査を行った結果、救急車による患者搬送人員のうち、約2割超が「不適正な利用」であったという結果が出ている。
- ・夜間や休日の救急外来への軽症患者の集中などを背景に、重症救急患者の円滑な受入が難しい状況になりつつある。

「早くて便利だから...」など、安易な気持ちで救急車を利用する人が増えていいます。救急病院でも、重症者へ迅速に対応することができなくなり、それでは救える命が救えなくなってしまつておそれがあります。救急車の適正な利用をお願いします。

本当に救急車が必要ですか？



市内電車の車内にポスターを掲示

■ 「広島県地域保健対策協議会・乳がん医療連携推進ワーキンググループ」では、「広島乳がん医療ネットワーク」参加医療機関が使用する２種類の「地域連携パス」を作成しました。

連携パスの名称	内 容
「広島県乳腺疾患（検診・精密検査）地域連携パス」	乳がん検診や精密検査を行う医療機関が検査所見を共有することで、検診精度をより高めることができます。
「広島県乳腺疾患（術後治療）地域連携パス」	手術を行う医療機関と術後治療を行う医療機関が検査や治療計画を共有することで、切れ目のない効率的な治療の提供に役立てることができます。

※「地域連携パス」は、広島県ホームページからダウンロードできます。

トップページ>健康・福祉>医療>がん対策>「広島乳がん医療ネットワーク」の地域連携パスができました

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/page/1235103305478/index.html>

■ 乳がん患者のための『わたしの手帳』を作成しました

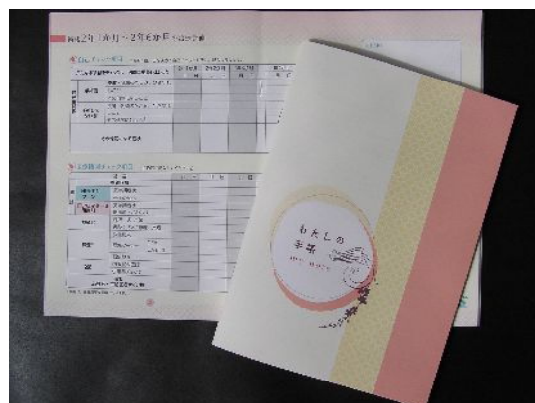
「広島県がん対策推進計画」に基づく「広島乳がん医療ネットワーク」の取組の一環として、乳がん患者の診断から術後に至るまでの検査や治療計画などを記録し、患者と医療を行う医療者が情報を共有する「わたしの手帳」を作成しました。

作成に当たっては、患者さんの意見を取り入れ、タイトルやデザインなども患者さんが利用しやすいように配慮するとともに、医師の診察を受ける際に役立つよう、日頃の症状や疑問、気になっていることなどを記録することができるようにしました。

作成された手帳は、「広島乳がん医療ネットワーク」に参加する「総合診療・専門治療施設」や「術後治療・経過観察施設」を受診された患者さんに無料で配布しています。

【主な内容】

- 日常生活で気をつけること
⇒ 腕のむくみ（リンパ浮腫）の予防など日常生活での注意点など
- あなたの乳がん情報
⇒ 手術後の病理検査結果、手術・放射線治療・化学療法などの治療情報の記録
- 術後の治療計画
⇒ 術後 10 年間の自己検診結果や気になる症状などの記録、主治医が記入する術後の検査や治療経過の記録
- 正しい情報を活用しましょう
⇒ がん医療に関する相談窓口の紹介



■第4号は 三次市立三次中央病院をご紹介します。

○ 病院長からのメッセージ



市立三次中央病院は、昭和27年の開設以来、県北の中核病院として施設の整備・機能の充実を図ってきました。病院周辺は広大な開発地区で、三次ワイナリー、奥田元宋・小由女美術館、みよし運動公園が隣接しており恵まれた環境です。病院の職員の地域医療にかけるモチベーションは高く、地方の医療崩壊が叫ばれる中、最後の砦となるべく頑張っています。

地域医療にご尽力いただける先生方をお待ちしております。
(中西敏夫)

○ 病院の特色

当院は、備北二次医療圏の中核病院で、特に、救急・周産期・がん医療では重要な役割を果たし、「地域の皆様から信頼され親しまれる病院」をめざしています。



区分	内容
救急医療	救急告示医療機関の指定 小児救急医療拠点病院の指定 (24時間365日小児救急の実施)
災害医療	災害拠点病院の指定
周産期医療	地域周産期母子医療センターの認定 病棟・外来の一元化体制による継続した妊娠管理の実施 里帰り出産や母乳育児支援の実施
がん医療	地域がん診療連携拠点病院の指定 がん相談支援センター、緩和ケアチームの設置 緩和ケアコーディネーターの配置 リニアック等の整備、デイホスピス「たんぽぽ」、 がん外来化学療法室の開設



集団災害医療救護訓練
～観光バス2台の衝突事故を想定したトリアージ訓練～
(日時)平成20年10月5日(日)
12:00～16:00
(場所)市立三次中央病院
(参加人数)

○ 病院概要 (H21.1.1 現在)

病床数等	職員数		所在地
350床	医師	59人	〒728-8502 広島県三次市東酒屋町531番地 TEL 0824-65-0101 (代表) FAX 0824-65-0150
	看護師	233人	
18診療科目	その他	69人	
	計	361人	

○ 医師募集情報

当院ホームページに掲載しております。

HPアドレス：<http://www.miyoshi-central-hospital.jp>

Mailアドレス：byouin@miyoshi-central-hospital.jp

市町案内

■三次市

1. 三次市の概要

三次市は広島県の北東部に位置し古山陰山陽を結ぶ交通の要衝、文化・経心として発展してきました。現在も中自動車道をはじめ幾本もの国道や鉄道で主要都市と結ばれ、県北の中心都市の役割を担っています。



【花火大会】

現在の三次市は、平成16年（2004）に1市4町3村の合併により人口約6万人の街となっています。

春は「さくら祭」、夏は「鵜飼」・「納涼花火大会」、秋は「紅葉まつり」・「霧の海」などの四季折々のイベントを開催しています。

また、「奥田元宋・小由女美術館」、「広島三次ワイナリー」など自然・文化・芸術・食が堪能できる街として市外からの観光客で賑っています。



【日の出】

くから
済の中
国縦貫
によっ
として

2. 三次市からのメッセージ

三次市の医療は市立三次中央病院を中核とし、医師会等との連携のもと実施しています。医療圏は、広島県北のみならず、島根県南部地域を含んだものであり、また、高齢化の波が最も強く押し寄せている地域の医療を担っています。

このような中、「あなたを見守る安心・充実医療365日」を基本目標として、市民一人ひとりを尊重した医療サービスを充実させるため、広域的な視点での医療機関相互の連携強化と機能分担を進めるとともに、医師・看護師などの必要な人材の確保に取組み、保健・福祉・医療の連携と地域あいによる包括的な医療体制づくりを行っています。

皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



【奥田元宋・小由女美術館】

の支え

広島県からのお知らせ

■ 広島県の医療が面白い!

い!

広島県では、県民一人ひとりが、安心して、健康で豊かに年を重ねられるよう、質が高く効率的な地域医療体制の確保をめざして、様々な施策に取り組んでいます。

今回は、広島県が実施している周産期医療に係る事業についてご紹介します。

広島県のユニークな取り組み

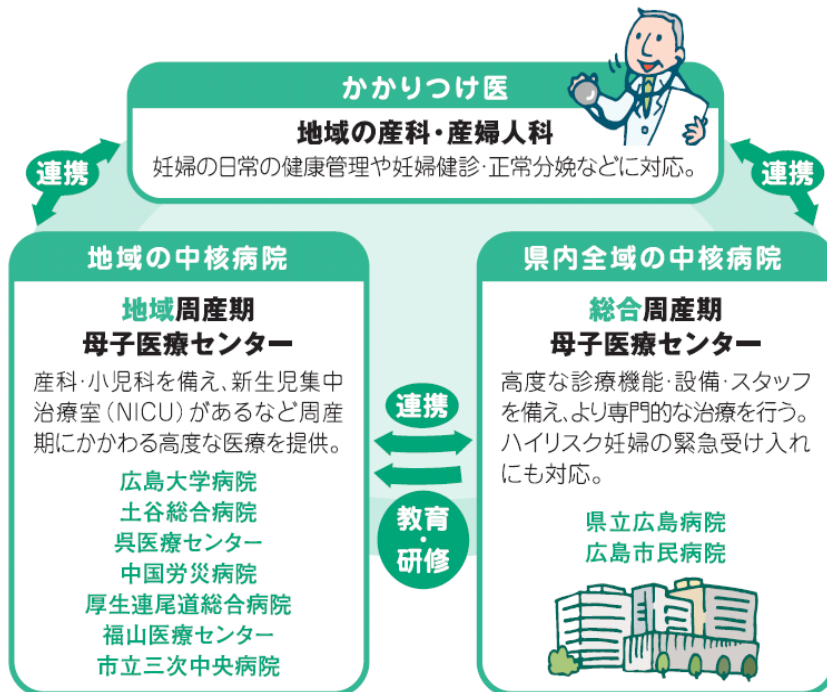
連携体制	○ 行政・医師会・大学が連携して保険医療課題の解決に当たる 県地域保健対策協議会（平成14年設置）
救急	○ 携帯電話メールを活用して救急搬送先の最適な設定をサポートするシステム「こまっ！LL」 ○ 2機の消防・防災ヘリを一元管理し、低コストで全県をカバーする独自のドクターヘリ事業 ○ 小児科医療等による急病の救急をトリアージする広島市の「こどもの救急電話相談」
医師確保	○ 県外から呼び入れ、20年ぶりの医師常駐を実現した「ふるさとドクターネット広島」 ○ 市庁の主体的な医師確保への取組を支援する月額5万円の「緊急医療支援中心交付金」
調査	○ 産科医のネットワークにより実現した、周産期死亡率が最も低い、「日本一安全に産むことができる広島県」
肝臓	○ かかりつけと専門室が連携した「肝臓患診療支援ネットワーク」の構築による、全国トップレベルの肝臓治療体制
乳がん	○ 検診から専門的治療、術後のケアまで、世界標準の治療を切れ目なく提供する「広島乳がん医療ネットワーク」常備へ着目

《広島県の周産期医療システム》

産科を始め、周産期医療に関係する医師や看護師、助産師の不足が全国的な課題として指摘されています。

広島県では、医師などの医療関係者の緊密な連携や、空床情報などの情報を常に共有するシステムにより、安心して出産できる周産期医療体制が構築されており、妊婦のスムーズな受入が行えるよう周産期母子医療センターと地域の医療機関が相互に連携・対応しています。

高度な治療が必要な場合においても、県内2ヶ所の「総合周産期母子医療センター」と7ヶ所の「地域周産期母子医療センター」が相互に連携し、補完する体制が構築されています。



搬送機関

周産期医療 Net Hiroshima
空床状況などの周産期医療に関する情報

《産科医確保支援事業》

過酷な勤務環境にある産科の医師に対し、医療機関が手当を支給する場合、その一部を助

成します。

手当ての区分	内 容
分娩手当	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 対 象 者：産科医等 ◆ 対象施設：分娩件数に応じて支給される手当（分娩手当等）について明記されている分娩施設 ◆ 手 当 額：1分娩当たり上限 10,000 円※
研修手当	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 対 象 者：後期研修 1 年目の産科医 ◆ 対象施設：産婦人科専門医の取得を目的として、指導医の下、研修カリキュラムに基づき研修を受けている者を受け入れている医療機関 ◆ 手 当 額：1月当たり上限 50,000 円※

※国の補助基準額であり、実際の医療機関の支給額と異なることがあります。

す。

《地域周産期母子医療センター医師育成事業》

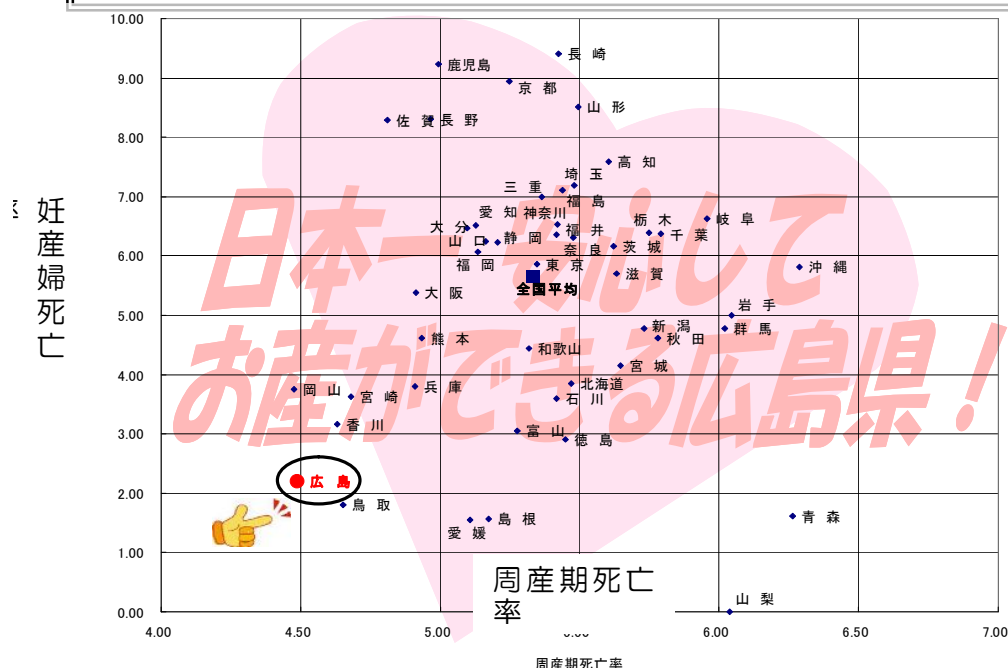
周産期医療で頑張る医師のキャリアパスを研究・研修費への助成(※)で応援します。

区 分	内 容
対象施設	地域周産期母子医療センター ～広島大学病院、土谷総合病院、呉医療センター、中国労災病院、厚生連尾道総合病院、福山医療センター、市立三次中央病院～
対 象 者	産科、小児科（新生児科を含む）に従事する医学部卒業後5年目から10年目までの医師
助成者数	5名
助成限度額	1人当たり月額200千円、12か月（県の会計年度内）を限度とする。 ただし、助成は、1人1回限りとする。

※助成者数及び助成限度額は、平成20年度の実績であり、平成21年度は条件が変更されることがあります。

※広島県の周産期死亡率と妊産婦死亡率※

本県の平成10（1998）年から平成19（2007）年までの周産期死亡率及び妊産婦死亡率は、いずれも全国的に低くなっており、「日本一安心してお産ができる県」と



【お問合せ先】

広島県健康福祉局医療政策課 医療支援グループ (周産期医療担当まで)

tel (082) 513-3063

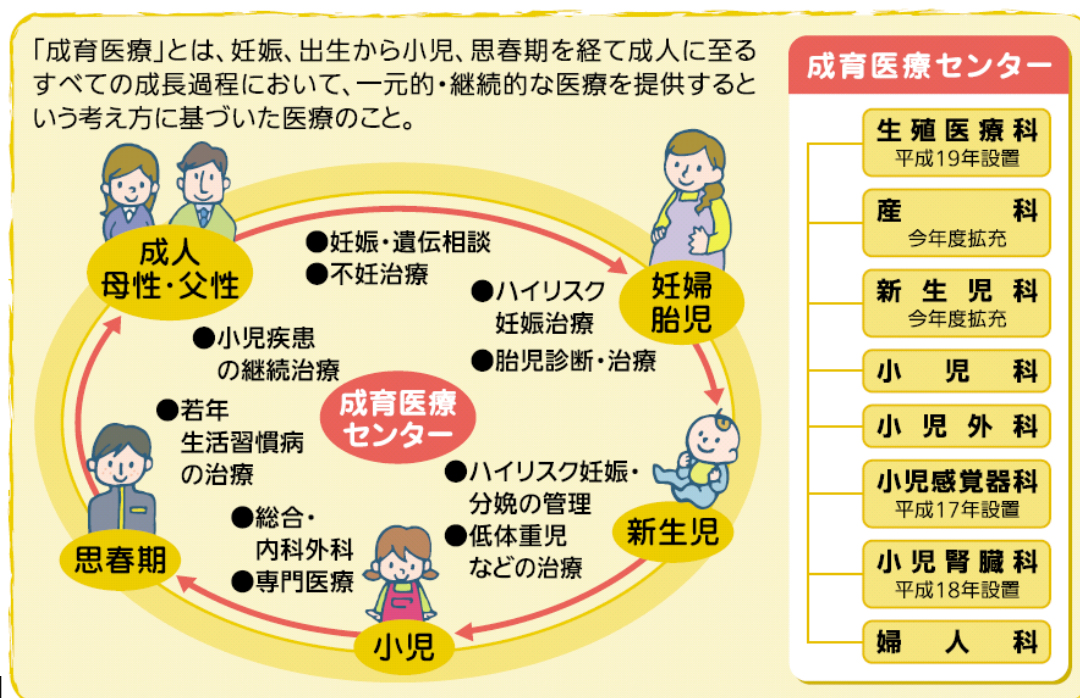
e-mail fuiryou@pref.hiroshima.lg.jp

《県立広島病院成育医療センター》

県内全域における周産期医療の中核を担う県立広島病院では、母子小児医療の機能強化を図るため、従来の「母子総合医療センター」を発展・改組した「成育医療センター」を開設しました。

【センターの特徴】

- 生殖医療科、小児感覚器科、小児腎臓科などの専門診療科を備え高度医療を提供
- 産科・新生児科病棟、小児病棟の拡充整備等により患者受入れ態勢を充実
- 各診療科の連携をより一層推進して、次代を担う子どもたちへの一貫した医療を提供



【お問

広島県健康福祉局県立病院課 (成育医療センター担当まで)

tel (082) 513-3234

e-mail fubyoin@pref.hiroshima.lg.jp